

ちよいワルオヤジの古代史エッセー
第六回「古代史を楽しんで」一誰の上にも雨は降る

大和川 一路

1. 小説で読みとく古代史
2. ソウルに行く
3. 白鳥になって
4. いろいろな声が

1. 小説で読みとく古代史

「こんな本があったらいいな」と思い続けて十数年。やっと出会えました。

『小説で読みとく古代史』周防柳さんのエッセイである。

九州の友達から差しだされ、題名だけで子供のようにほしくなって、もらった。学び始めに「解説本だけではなく小説も読む」ことを決めたが、あの頃は読んだ本がどんな領域で、良本なのか悪本なのか見当もつかなかった。

帯は“あの謎は解けたのか？清張は、梅原は、黒岩重吾や永井道子はこう考えた”内容は下記のごとくで、撒き餌にパクツとなってしまいます。

- ・邪馬台国は二つあったか
- ・神武は何度東遷したか
- ・応神天皇はどこからきたか

：

清張先生は巨人。梅原猛は『海人と天皇』が小難しく苦勞しました。(注釈1)
黒岩重吾の『紅蓮の女王』『落日の王子』『天風の彩王』『茜に燃ゆ』『天の川の太陽』『磐舟の光芒』『北風に起つ』などは最高の古代史小説でした。永井路子は読んでいません。

周防柳さんの立場は、邪馬台国は邪馬台国として九州で生まれ九州で滅び、大和は大和としてそれとは無関係な王権を樹立したという考え方。

まずは、邪馬台国の方角・里程問題に触れたあと、考古学からの優位性比較へと続きます。突っ込みどころ満載で、「これは違うぞ、これはこうだぞ」と指摘せずにはおられません。畿内派の強みとして、纏向遺跡に卑弥呼の墓と目される箸墓古墳があること、卑弥呼の鏡と呼ばれる三角縁神獸鏡が畿内一帯から多く出土していることを挙げてます。

九州派の有利な点は鉄製品の出土が近畿の比ではなく豊富なこと、しかし九州には肝心の卑弥呼の墓らしきものがありませんかと書いてある。

「ちょっと待ってよ。箸墓古墳が卑弥呼の墓じゃないって誰も知ってるし、すでに見つかっているのかもしれないし、三角縁神獸鏡も結論出てるし、まだこれ書くの？」

「日田の古墳から出た“金銀錯嵌珠龍文鉄鏡”が曹操高陵から出た鉄鏡と同じで、もう邪馬

台国の所在地は筑紫平野のどこかで決まりじゃないの」
出だしから、ご教授頂いた知識で快調に指摘できる。

「最近、云うようになったわね。小賢しい！みんな歴史の先生の受け売りでしょうが！」
「そうとも言えるが、もう血肉になっているんだよな。福岡に住んでみると邪馬台国がソバにあったことが皮膚感覚で分かるんだよな」
「皮膚でモノ考えるの!?!とうとうね、パー」

「あのね、前にブランドのバッグの100%コピーは偽物か本物かの話をしたでしょう。女性には品質が本物であればいいのでしょ。流通は偽物だけど品質は本物と云えるでしょう。本質とは何かを問うたのですよ」
「卑弥呼のひ、倭国のわを卑字と思ってるでしょう。違うんだぞ。中国のワープロでひを打つと卑、わを打つと倭と最初に出てくるんだ。卑字じゃないの。
馬子や蝦夷や入鹿が卑語かどうかは知らんけど…」

「あのね、どこで中国のワープロ打ったの？ 自分がやったように云うじゃない！
馬子も蝦夷も入鹿も卑語だと言ってたわよね。いつから“知らんけど”になったの？
卑語と良語を理路整然と説明してみなさいよ。私のこと馬鹿にしとれへん？学んだことが血肉にならず、血栓になってるよ。このまま生存できるのかね。ヴィトンが黒いビニール袋に入っていたら嬉しくないでしょ。ジョージ・クルーニーみたいになりなよ」
何歳になったら、無茶苦茶を微笑み返しで済ますことが出来るのだろうか…。

ハッとした。周防さんも女人だ。女人天声は奥が深いぞ。
まずもって周防さんは邪馬台国は九州で生まれ九州で滅びたと宣言していた。
文章を読んでガタガタ言ってはいけない。本を読まねば。
初心者向けに分り易く、そして古代史小説の開拓領域を探っているエッセイなのだ。
「カリスマ持統の狙いは何か」では『日輪の賦』、『朱鳥の陵』、『美貌の女帝』、『穢土荘厳』、『天平の女帝孝謙称徳』と女流作家の五連荘。「女帝を意識しすぎたせいかもしれません」と云ってはいるが偶然とは思えない。これぞプロの術なのだ。「男性作家も」と云うことで、ページをめくると黒須紀一郎『霸王不比等』が登場する。これを出すのか！
初稿でこの小説の面白かったことに触れましたが、大陸諸国との関係によってこの国が作られたという史観がおもしろく、と書かれており追認してもらったような気がした。
『古事記』『日本書紀』の創作過程のドラマも興味深い、とも書いてある。
そう、そこが面白くて何回も読み返したが、このエッセーにそれも書いておけば嬉しさ三倍増しになったのに。

2. ソウルに行く

「ニョロがへばりついてると気持ち悪いので全部洗い流した。一か月かかったよ。業者も手配したし、もう大丈夫。俺、工程管理はお手の物だから。酒飲んでないし、カラオケもパチもゴルフもなんにもやってない。里芋が可哀そうだから雑草むしりはやってるよ」

生まれて此の方、一番熱い夏だった。電気代をケチって熱中症でお陀仏になるよりも、クーラーを昼も夜中もバンバンかけて生きることにした。

ずいぶん前のことだが、コンビニに行く道で倒れていた老人を抱き起した。ウツとなった。いつも菓子パン一つ買ってる人で、「大丈夫」と言って去っていった。背中には塩が吹いた跡が残っていて、風呂にも入らず、着替えもせず、どんな毎日を送っているのだろうか？みんなすっかり歳をとってしまった。静かに暮らし、楽しいことを見つけて、身と身の回りを綺麗にして、穏やかに生きようとしているのに…。

洪水で流されたり、コロナに罹ったり、近所の空き家が壊されてゆく様を見てひとり暮らしの孤独を感じたり、貧乏神が隠れておらぬかと暗闇に目を凝らしたりする。

気晴らしで、福岡の仲間四人とソウルに遊びに行くことにしました。

「軍属でね、俺、平壤で生まれて引き揚げてきたんだよ」

「尹大統領になって凄い変わり様だけど、逆ブレが怖いなあ」

「水原華城って『イ・サン』のあれでしょ」

こんな会話でスイッチが入り、三つの資料を用意しました。

- ① 馬韓・弁韓・辰韓から朝鮮時代までの韓半島の王朝の推移表
- ② 『チャングムの誓い』や『トンイ』など、朝鮮王朝のどの王様の時か分かる表
- ③ 大韓民国の歴代大統領の事績一覧表

みんなを青瓦台と水原華城に案内しよう。私は梨泰院に行ってみたいし、風水も。

それから中央博物館や戦争記念館にも行って、百済のことを勉強してきたい。

最後はナイトクルーズで打ち上げとしよう。

「同じドラマを20回も見て韓国語を習得した人がある」と聞いて、私も『梨泰院クラス』や『一緒に暮らしませんか』などを何回も見ているが、確かに単語が耳に馴染んでくる。ヨボセヨは電話のもしもし（ヨボは嫁さん。愛しいかあちゃん何ですか？みたいな感じ）韓国料理を食べたらチンジャマシソヨ（すっごく美味しい）カバンを買う時はオルマエヨ（いくらですか）

あっという間に仁川空港。広大な埋め立て地には、まだ何本でも滑走路ができそう。横田基地と横田空域の返還が実現すればスーパー東京になるのに、いつも残念に思う。

釜山の国際市場で買ったブランドバッグを「もうひとつ欲しい」と、田主丸の先輩は南大門市場を見て回った。

四件目の店主から「それは韓国ブランドで、倒産したからもうナイよ」と云われたそう。申し訳ありませんが、先輩の口からそれを聞くと二重にも三重にも可笑しくて。地下に入って高級タオル布巾を見つけた。日本で一枚 1,200 円の物が 200 円で売っている。5 枚買ったら、我も我もと交渉どころか 20 枚も売れて店のアジュマは喜んだ。

「豚足でも食べてビールでも飲みましょう」

豚足は白っぽいと思っている福岡の人達からは、照り照り焦げ茶の山積みされた豚足のお店は敬遠された。これじゃあ、オルマエヨもチンジャマシソヨも出番がない。

「王者は南面す」と誰が言ったか知らないが、光化門の李舜臣から歩いて北上し、景福宮を通り抜け、青瓦台を目指そうとしたが、この地も京都と同じで北から南に下らないとダラダラ坂がシンドイところ。ホテルから乗ったタクシーおじさんに「チョンワデ（青瓦台）」そしたら「尹大統領はヨンサン（龍山）に行ったよ」（なんとなくお互い判るのです）

青瓦台に入ってすぐ左の部屋に歴代大統領の肖像画が南向きに並んでいる。



「朴槿恵さんは子供の頃、安倍さんと遊んでたらしいよ。いろいろ不幸があって…呪い師に頼るのも分かるよ」

「朴正熙は日本の陸軍士官学校。盧泰愚まで軍事政権」

「文政権の時にここに金与正を入れて、盗聴工作されるから国防省に移ったんだ」

「あれが李承晩ライン、こっちが冬のソナタの金大中。それと竹島に上陸した李明博」

「李明博は現代建設の社長だったんだよ。五大財閥の SK のルーツは京都織物。日本統治時代に合併で鮮京織物となって、だから SK なんだよ」

「日本はどれだけ財産残してきたんだろうね？北にはもっとあると思うよ。国交結んだらどれだけの賠償金になるのかな」

「ならず者国家に囲まれて、日本は覚醒しないと」

「尹さんの手のひらに“王”と書いてあったんだよ。風水を信じているのかな？」

「龍山って汚職とか利権争いのことでドラマによく出てくる」

「そう、『梨泰院クラス』にもヨンサンが二回出るんだよ」

知っていること全開で、ユーチューブとネットフリックスで相当仕込んである。軍事政権が終わって、まだ 30 年しかたっていないことを私たちは学びました。

水原華城（スウォンファソン）はソウルから南一時間。正祖大王がここへ遷都しようとしていたらしい。百済の時に高句麗におされて熊津（公州）に都を移したが、李朝の時にも

そんな事があったとは。

ガイドの潘さんが「アング、アング」と云うのでなんのこっちゃと思っていると、パンフの水原華城/水原行宮を見て、アッと閃いた。行宮がアングなのだ。あんぐうがアング。宮殿の中で「あの木箱は何か分かりますか？」とガイドさん。「米びつです」
ここは『イ・サン』の舞台なのだ。思悼世子が米櫃に閉じ込められて死んだ事件は韓国の人なら誰も知っている。だから即答・ピッタリ賞を称賛してくれないのだろう。

城壁を歩き、蒼龍門で東の青龍、北の玄武、西の白虎に南の朱雀の話が始まった。

いいぞ、いいぞ風水になってきた。

「ところで石垣の色が上と下で違いますね～」と誰かが言った。

「ええ、併合時代に日本軍が壊したので修復しています」

「..しまった」

秀吉が壊した、日帝が壊したと、どこへ行っても付きまとい申し訳ない気分になる。

「インスタ映えするから」と云われ、気乗りはしないが撮った。



帰り道も日本車ソックリの現代と起亜の車ばかり。「三菱やマツダが応援したんだけどな」

「あのビルの真ん中、穴が開いているでしょ。風水ですよ。香港にも穴の開いたビルがいっぱいあるんですよ。屋上に水が張ってあるビルもあるんですよ」

「単なるデザインじゃろ！」

「じゃろって、違いますって。漢陽の地も風水地理師が王様に進言したんです。正五九月は北にありも、山の南・川の北は陽も、風水ですよ」

「カジノに行きたいなあ」「エエッ?!」

「博物館も梨泰院もナシですか。分かりました、いいですよ。ご案内します。でも南山のヒルトンホテルは廃業して、カジノは閉鎖されたんです。龍山のノホテルに移りました。行きますか？ 作戦を考えてあるんですか？」

「うん。アウトサイド縦横ゾーン3倍作戦をやってみたい」

「先輩、それ、ラスベガスに一緒に行った大先輩も一時やってましたが、交差する所に何枚か置かないと増えませんよ」

龍山に向かうタクシーの中からデモを見た。どっちのデモだろう？

「原発処理水反対のデモですよ。野党の政府批判デモですね。あんなことはダメです」

「ハンガーストライキも茶番ですよ」

「あれ見て、茶色のビルが2つ見えますね。尹大統領があそこにいるんですよ」

カジノにはペラペラのシャツやズボンの貧装な人が大声で騒いでいたり、スロットの椅子に何もせずに座っている。龍山開発工事の出稼ぎにでも来ているのだろうか？
週給の少ないお金を握りしめて、人生を逆転させようとでもしているのだろうか？
月給 5,000 元の農民工には、ここはギャンブルの場でしかないでしょう。
一方、バスローブを羽織りスリッパで高級ホテルのロビーを我が物顔の女の子たちがいる。100 万ウォンの小切手で、次から次へと賭ける成金お婆さんの娘たちに違いない。

龍山駅はソウル駅から二つ目なのに、なぜ未開発のまま残っているのか調べて分かった。かつて日本軍が駐留し、戦後米軍司令部が置かれて、韓国陸軍本部があったところ。政財軍の利権が渦巻く得体のしれぬ場所なのか。

『ドラゴンシティ』とネーミングされて大々的な有様に、中国が強く感ぜられる。

最後の日はナイトクルーズ。みんな船の艫でボンヤリしている。
「レインボー噴水見ましたか？」ガイドの李さんが聞いてきた。
「なに？それ」
「何のためにナイトクルーズに来たの？」
「漢江の奇跡を見に来たんですよ」



「ハートの小道が綺麗でしょ。あそこ歩いて。写真撮るわよ」
電飾ハートで写真なんか撮りたくない。

おじさんたちは今、『オーバーザレインボー』なのです。

明日からどんな日常になるのだろう。

水害の後始末が終わったら、これからの出来事がダイヤになるかもしれない。

80 過ぎてからの体験で、今度はヨーロッパまで行っちゃうかもしれない。

ただぼんやりと脈絡なく考え事をしていた。

「転ぶ時は転ぶ。盲腸もとったし痔も切ったし、もう金輪際躰にメスを入れるのは御免だ」

「北と言えば朝鮮。春はブラハ、冬はリヴィエラだな。秋は何だろうか？」

「鬱の友達はどうしてるかな。母親にあんたは誰だと云われたなあ」

「ハブが仁川や釜山にとられてしまって。明洞は廃れてきたし、江南の次は龍山かなあ。

日本は万博と IR で大阪。その次は天神ビックバンの金融と熊本半導体で気脈は九州だ」

「百済を見たければ日本に行け、か。百済観音とか百済寺とか今度見てくるか」

「年とったら、幸せより嫌事が無くなった方がいいって、誰だったか。女人天声かなあ」

李さん、いろいろお世話になりました。じゃ、またいつの日にか。

ちょっと、指のハートはやめてよ。それ気持ち悪いよ。

「コマスニダー」「コマオヨ～」「カムサハムニダ～」みんな少し勇気がつきました。

3. 白鳥になって

ゴルフ対決と古代史情報交換で三重県の飛鳥川師匠を訪ねました。

昨年秋は吉野の洞川温泉に泊まり大海人と役行者で盛り上がり、今年は近場の亀山と信楽に連れて行ってもらいます。日本武尊と聖武天皇です。

岐阜の八百津の『玉柏』でまずは一献。フランスのコンテストで今年トップになったお酒です。なんとその日本酒を奥様は昔から知っていたそうで師匠も私もビックリしました。奥様は三重の出身。

九州と古代史に縁のない人は読めないだろうと実証実験で聞いてみました。

雑餉隈 小鹿田焼 安心院 足一騰宮 能褒野 さてどの地名が読めたと思いますか？

“のぼの”くらいかなと思いきや、「“あじむ”でしょ」には驚いた！

「大分の焼酎だよ」古代史軸でものを考えてはいけませんね。

「あなた方、ミミタラとかモモヒメとかよく覚えられるね。持統は憎たらしいし、不比等は可哀そうだし…」??どこでそう思ったの？この感性は理解不能です。

「師匠、ヤマトタケルの足が三重に曲がった餅のように疲れたから、この地が三重というようになったんですよ。知ってましたか？」「蘭奢待に隠された秘密を知ってますか？」「東大寺でしょ」雑学が通用しなくなってしまった。奥様に聞くべきだった。

「『VIVANT』見てないの。変わってるね～『六本木クラス』も見てないの。へ～」

「それは『梨泰院クラス』のコピーなんです。六本木なんて生ぬるくて見ちゃおれん。

イソの企画書に一番、ありがたい人は？ 一番、申し訳ない人は？ 人生で一番幸運なことは？ 今、愛する人はいますか？ これを見てセロイがイソを愛していることに気づく場面があるんですよ。涙がポロポロポロポロ出てきてね、何回見ても良いよ」

「よく涙が出るねえ。毎日、何やってるの？」なんか全体的に分が悪い。

ビール、日本酒、焼酎、ウィスキー、イチジクのワイン煮で大量飲酒の夜は更けました。

喜寿の人が「6年後のエイジシューターを狙っている」という。

こんな人とはもう血戦とはならない。14欲しいと云ったら「プライドは無いのか」と。

「はい、ありません」それで8もらったが、また負けた。奥様にも負けた。

残り185ヤードのセカンドショット。金剛力で親方師匠のベルトが切れた。

「あ～あ、やっちゃったな。素振り一発山の狸も腰抜かすだよ」とカートで笑い転げた。

「聞こえたかなあ？ 傷ついたかなあ？」と奥様は心配そう。

今度、韓国ブランドのベルトを5本買って、エイジシューターになったらプレゼントしよう。

能褒野王塚古墳に出かけました。

博多座に「スーパー歌舞伎」が掛かったら、猿之助を一度は見たかった。

中車では隈取りしても半沢直樹をいじめた顔が透けて見えるようで、見たくない。

駐車場であっちだこっちだと云いながら、グルッと回っていつもの宮内庁の「みだりに域内に立ち入らぬこと」にたどり着いた。景行天皇皇子日本武尊能褒野墓と書いてある。

ヤマトタケルを学校で習った記憶はないし、黒岩重吾の『白鳥の王子』も読んでいないし、なんとなく英雄というイメージだけで、人物像が分からない。

660年百濟滅亡、668年高句麗滅亡 676年新羅が三韓統一。

金春秋が倭国に来たのは647年。654年太宗武烈王になる。

天武天皇が『日本書紀』を作りなさいと命じたのは681年。

その頃ならば、混乱の東アジアの状況、情報の鮮度は高かったのでしょうか。

金庾信(金官伽耶の王族)と金春秋(新羅の王族)の三韓一統の物語はドラマ『善徳女王』や『大王の夢』で描かれています。夢を交換したり、蹴鞠で懇意になったり、王朝内の王と豪族、王と太后、異母兄弟の暗闘など、『日本書紀』にも随所によく似たことが書かれています。どっちが真似をしたか知りませんが、書紀の方が古い書き物なんです。

ヤマトタケルは金庾信と金春秋が化体したような感さえあり、半島統一への歴史を参考に、ヤマトタケルの倭国統一の記述が脚色されているのではと勝手に思っています。ヤマトタケルは女装して潜り込み、熊襲の一族をやっつけたなんて、これ、隈取りした女装の花郎と同じですよ。

「ひさかたの 天の香山 利鎌に さ渡る 鶺鴒 弱細 手弱腕を 枕かむとは 吾はすれど さ寝むとは 吾は思へど 汝が著せる 襲の裾に 月立ちにけり」

白鳥になって飛んで行った英雄イメージと、この歌の女々しさとの落差は何でしょうか。

河村哲夫さん『景行天皇巡幸記』の“尾張の宮贄媛”を読んで理解が出来ました。

未練がましい歌を書紀に書くから、偽書だなんて云われるのです。晩秋の講座の先生の歴史旅で、伊勢神宮や熱田神宮を巡る時にヤマトタケルの真実を聞いてみます。

椿大神社に寄りました。



ちんだい神社ではなくて、つばきおおかみのやしろです。伊勢国一の宮、主神は猿田彦大神。

むかし、会社の長老が地鎮祭があるとサルタヒコ、サルタヒコと嬉しそうに駆け回っていました。みんな耳タコ。

「式次第一切合切俺の出番だ」

誰彼も活躍する場がありました。

ここの由緒書きも繰り返し読まないで理解できません。

「師匠、天の八衢とは何でしょうね？」しばらくしたら、
「あめのやちまった、やちまった」と冗談で返され、本殿に歩き始めました。
セカンド打った後に聞こえたのかな？ それとも紐づけ記憶法を伝授されたのかな？

『日本書紀』現代語訳には、あめのやちまたは天の八街と書いてあり、天孫の瓊瓊杵を葦原の中国に降ろそうとする途中、道の分かれる所に猿田彦が迎えに来ていて、つつがなく高千穂に先導した。ということで分かれ道が多くある所と理解できました。

どうして天鈿女が自分の胸を露わにむき出して、腰ひもを臍の下まで押し下げて猿田彦と向き合うのだろうか。猿田彦の鼻が長いのは夫婦となる暗喩なのだろうか？

信楽まで新名神で行くと近い。



忍者は伊賀と甲賀、恐竜は福井、色々あるがタヌキは信楽に沢山いる。聖武天皇はここに紫香楽宮を造り、大仏建立の詔を発した。山火事が何度もおこり、結局平城京に遷り、大仏も東大寺に移った。「彷徨五年」と云われるが、聖武天皇は何を悩んでいたのだろう。優婆塞の親玉の行基を大僧正に抜擢し、神道のトップである天皇が廬舎那仏に「北面」したと云う。暗闘の歴史は続くが、この時代を描いた本が杉本苑子さんの『穢土荘厳』。周防柳さんが紹介している本である。

福岡に戻る土曜の朝、携帯が鳴り画面には「鳥山さんの奥様」と。ふむ？

「ラスベガス以来ですね。お元気ですか」

「主人が月曜日に亡くなりました」

メリーゴーランドに乗っているような感覚の中で、遠い記憶に揺られていた。

一緒に仕事をしたのは三年程しかない。

40年も前に、ある支店で出会った。私は平社員で大先輩は40ぐらいで次長で赴任。

「仕事は遊び感覚を入れてやるんだよ」

「分析なんか家でやってこい。社長とトイレと女子社員。現場を見なきゃ分からんだろが」

「株を買え。お客と話も出来んだろう。ドル預金もオープンでつくれ」

「軽井沢72に遠征するから。お前たち穴開けるんじゃないぞ」

「韓国に行くから、パスポート取っとけよ」

「『富川』で飲むぞ。お前から歌え。神谷、お前は歌わんでいい」

「雀荘で醒ますぞ。神谷、お前は帰れ、5人じゃ困るだろが」

8時から8時まで仕事をして5時間遊んで、日本のサラリーマンは強かった。

カラオケはいつもトップのご指名で、一つ覚えの『さらば青春』だけが上手くなり、『星降る街角』や『愛人』や『空港』も嫌というほど聴いて覚えてしまった。

手に余る案件と異常なノルマで充電する時間もない中、格別な人と出会い目が開いた。身を削るような毎日で、ほとほと疲れ切ってしまった。我慢はやめて、痔を切った。入院中にベッドで転勤の辞令をもらい、次長も栄転した。バブルのロケットが点火した頃、会社人生で唯一楽しいと思えた日々が突然終わった。20 数年後には大先輩も荷下ろしして、競馬に麻雀、株とゴルフで楽しんだのかも。誰の上にも雨は降るが、傘を差しだしてくれる人はそうはいない。

「こんなタイミングで電話があるなんて、鳥山さんが呼んでいるんだよ。今行かないと、もう機会ないよ」と背中を押してくださいました。師匠と名古屋まで車を飛ばした。この三人は韓半島古代史巡りをした類友なのです。

「あなたと 6 年前にラスベガス行ったのが最後の海外旅行だったのよ。

それからだんだん弱ってね」

「ええ、いつも韓国では相部屋だったので、インシュリンのことは知ってます」

「ありがたい方でした。幸運でした。また一緒にマカオに行きたかったです」

思い出帳には、熱田区の白鳥で生まれたことが記されていました。

4. いろいろな声が

喜怒哀楽がザルからすり抜けて、ニョロが溜まったようで調子が出ない。

好きな映画を爆見して、しばらく過ごした。

『ゴッドファーザー』、『人生の動かし方』（『最強のふたり』のリメイク）私は“最強”推し。

『沈黙の戦艦』が掛ったので、ララポート福岡で観た。原作の漫画を読んでいない人に理解できるかな？日米から離脱した原潜が「やまと国」として独立宣言した。

「日本人よ、真の独立とは何なのか、考えよ」違憲や合憲、左や右の話ではない。

『十二人の怒れる男』が商店街の映画祭で掛った。内容はみなさんご存じの通りで、利害関係のない 12 人が裁判所に招集されて、殺人容疑の少年に有罪か無罪か評決を下す物語。今回はジャニーズ事件に被せて観ました。

連日、性加害問題を取り上げているが、問題じゃない。あれはおぞましき犯罪なのだ。芸能人も記者も陪審員みたいにコメントするが、おじさんたちは怒り心頭です。

メディアも大企業もみんなおいしい思いをしたでしょう！

ファンの夢を壊す？違和感あるなあ。ファンから集まる 540 億円の会費が心配なのでしょう。腐った蜜に群がる有象無象

の行列が、おじさん達には見えている。「帝国を解体せよ」聞こえますか？



そういえばあの時、「持統が憎たらしい、不比等が可哀そう」と何のことか分からなかったが、ひょっとしたら天武ファンで持統が王統を百濟系に戻してしまったから憎たらしいのかもしれない。

不比等は若い時は恵まれぬ境遇だったから、あるいは子供たちが四人も死んでしまったから、可哀そうと感じたのかもしれない。

とすれば大変な読書家なんだ。本棚を探して秘かに読んでいるのかもしれない。

「まだ練り込み中だけどね」と師匠が五首の新作をノートに書いてくれた。

一首目は、星流る西空直後訃報来る「幼馴染が亡くなってね」とつぶやいて。

句の練り込みより、心の整理中なのかもしれない。

「週に二回麻雀やる仲間がいてね、神谷がいつもネギしょって来るんだよ。ベガスに神谷を連れてった時に、あいつスロットで80万円出したんだよ。1ドルで」
定年後は仲間になって、鳥山さんに可愛がってもらっていたんだ。神谷さん、良かったね。

「顔がしわしわブツブツで汚いなあ。なんとかならないの？」

「しわは男の年輪だ。男の顔は領収書、女の顔は請求書と云うだろう。人生を甘受した顔なの、女子には分かるまい。目の前には豊饒の海が広がってるの」

「言葉で胡麻化すな。あるのは昭和臭だけよ。眉毛のその一本の長い毛、寒気がするわ。

顔の事だけ言ったのに、早く切って。それじゃ女子にモテないわよ」

豊饒の海なんて広がっちゃあいないことは分かっているのです。

観念の世界に飯はないし、現実世界を生きる女性には敵わない。神々しいお言葉です。

床屋の38歳のお兄ちゃん、先月に比べて精悍な感じがした。

「ボクシングを始めました。嫁が試合はダメよって。内緒で試合に出ちゃおこな」

「指、怪我したら困るでしょう。私、70歳だけどできるかなあ」

「ええ、60何歳の女の人も通ってますよ」

「そうなの、どうしよう。正月に考えてみよう」

気力が少し湧いてきたようです。耳を澄ませてみると、良いことが聞こえてくる。